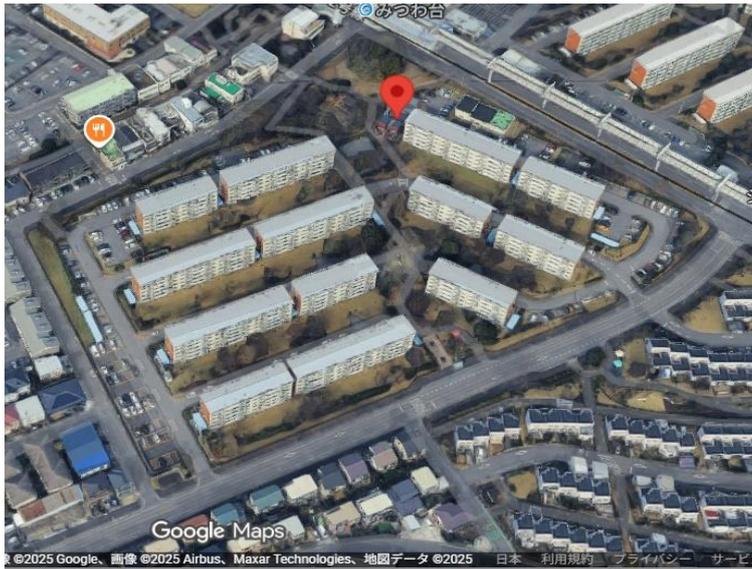


令和7年11月19日(水)樹木診断会 報告

会員:みつわ台2丁目46番住宅管理組合  
住所:千葉県若葉区みつわ台2-46-14

5階建て 13棟 全戸数 320戸

ご参考:昭和56(1981)年1月24日付 協定書 区域図



植栽樹種図(PDF:494KB)

樹木診断の希望内容

当団地には樹齢50年近いサクラやケヤキなどが多数あり、日照問題や倒木の危険性などに困っています。咲かない2か所の藤棚も悩みのタネです。今後数年をかけて木の伐採を行い整理する必要がある、優先順位や注意点についてアドバイス頂きたい。

樹木診断の流れ:

13時に集会室に集まっておいただき、出席者の紹介と挨拶の後、主催者より樹木診断の希望内容などの話があり、敷地内をまわりながら都度アドバイスを受け、集会所に戻り全体の総評と質疑応答を行ない14:45に終了した。参加者は、先生を含め11名となった。

樹木診断会の様子



サクラの診断  
枯れ枝は健全部位まで切除し、切り口には、殺菌塗布剤をぬる

具体的なアドバイスと総評



樹木名の銘板  
(管理番号と樹木名が記載)



ケヤキは駐車場側の枝が切られている  
(枝の落下防止とアブラムシの糞で車が汚れ防止のため)



↑  
倒木した木の跡

樹木の下に駐車している車が汚れる原因は、樹液ではなくアブラムシの糞によるもの



樹木が大きくなり密植状態  
間引いても景観上は問題なさそう



ケヤキの子枝が多数生えた状態  
(太い枝を切るとその場所から小枝が多数生えてくる)



このケヤキも同様になる



メタセコイヤ (どちらも高木になる) ケヤキ



キョウチクトウ

千葉市の花木だが毒性の問題があり、  
駆除する住宅が増えている



アオキの炭疽病  
伝染性の病気です。発  
病部位を早期に除去し  
処分する対応が必要

クログネモチ →

育てやすく庭木とし  
て人気がある



ピンポール(検知棒)の例 →



**総評:**

今回は大きくなり過ぎた樹木の伐採について相談が多かったが、樹木医の使命は樹木の命を守ることです。しかし、生活に支障のある樹木は伐採することを推奨します。

密植状態になっている樹木も、それなりに折り合いをつけて生きています。無理やり伐採する必要はありません。見て見ぬふりをするのも一つの知恵です。倒木の危険度や経済的な問題など総合的に判断し対応されることをおすすめします。

クスノキは強剪定に耐える強い木ですが、剪定時期として常緑広葉樹は新芽が動き出す前の3月下旬～4月下旬、落葉広葉樹(モミジなど)は休眠期の12月～2月が適しています。

倒木は、根株腐朽によることが多いので「ピンポール(検知棒)」を根元に刺して見分ける方法があります。

ケヤキの管理については、みつわ台3-13団地の樹木診断会の報告や資料もご参照→  
桜の管理や藤棚の管理については、磯辺西住宅の樹木診断会の総評や資料もご参照→

[みつわ台3-13\(PDF: 1.951KB\)](#)  
[磯辺西住宅樹木診断\(936KB\)](#)